

平成28年度

事業報告書

自：平成28年4月1日

至：平成29年3月31日

西宮市田近野町7番32号

社会福祉法人 尼崎武庫川園

平成28年度事業報告

社会福祉法人 尼崎武庫川園

1 平成28年度事業総括

平成28年度は、社会福祉法人制度改革として、経営組織のガバナンスの強化、事業運営の透明性の向上、財務規律の強化等の方針が打ち出され、役員・理事会・評議員会の権限・責任に係る定款変更や評議員選任・解任委員会の設置、財務諸表及び現況報告書等の公表を行った。また、いわゆる内部留保問題の一環として社会福祉充実残高の明確化を図る必要があることから、県社協や県知協主催の残高試算の考え方や財産目録の様式変更等の研修へ積極的に参加し、情報の収集と対応に努めた。さらに、社会福祉法人に対しては地域における公益的な取組を実施する責務についても言及されており、今後当法人としても法令を遵守し開かれた法人として適切な運営を目指すものである。

法人の課題となっている武庫アルテンハイムの経営については、一定の営業努力がなされ年度後半にショート利用が増えたこともあったが、前年からさらに収支が悪化する結果となった。建物の構造上やエレベーターが一機しかないことによる動線の悪さに加え、職員の支援力の向上、ショート事業の強化等の課題が複合的にあり、簡単に解決できない状況である。障害関係の事業所から資金の繰入を行い、利益を本部に集約することで運転資金の確保を図りながら、経営改善の具体的方策や事業の持続可能性を含め、今後多角的に検討を行っていく。

各施設の設備等について、リーブ・フルーリーの空調設備、アルテンハイムのナースコール設備及び第2松の園の衛生設備について、緊急的な改修工事を行った。いずれもご利用者の日々の生活に直接影響の出る設備であるため、定例（毎週火曜日開催）の施設長会で情報を共有し、各施設間で連携し安全面に十分な配慮を行った。いずれも、工期予定内に無事工事を終えることができた。

平成28年7月の津久井やまゆり園の事件発生を受け、9月には西宮警察の協力を得ながら、緊急的に法人研修として職員向けの防犯研修を実施した。また、防犯カメラの設置に係る国庫補助事業へ申請を行い、平成29年3月に支給決定を受け主要7か所に設置した。外部からの不審者侵入に対する抑止力とご利用者の無断外出等の際に衣服の状況や出て行かれた方向などが確認できるものとして一定の効果があると考えている。

尼崎市の公有財産の貸付料見直しに係る社会福祉法人等向け説明会

が平成 29 年 2 月 2 日に行われ、当法人の借地についても有料化とする方針が示された。通常の借地料から 50% の減免とのことであるが今後の法人運営に多大な影響を及ぼす金額であり、容易に受け入れることのできない問題と考え、同様の状況にある他の法人と連携を図り対応に当たっているところである。

2 職員配置

常務理事 施設長兼務	施設長 (代行含)	事務員 施設事務兼務		
1	5	3		

29 年 3 月 31 日現在

3 法人主催研修

実施日	研修名	各施設等参加者						
		松の園	カトレア	アルテン	リーブ	2松	1松	地域等
4 月 22 日	福祉の仕事とは	2	1	1	2	0	1	
5 月 25 日	就業規則について	2	2	1	2	0	3	
6 月 15 日	個別支援計画 1	2	2	1	2	0	1	
7 月 9 日	人権擁護について 1	6	4	6	9	5	5	
9 月 3 日	地域移行学習会	3	2	0	8	1	2	10
9 月 7 日	個別支援計画 2	2	3	1	2	1	1	
9 月 26 日	防犯研修	2	1	1	2	1	3	
11 月 21 日	個別支援計画 3	2	2	1	2	0	1	
1 月 28 日	人権擁護について 2	3	3	1	3	3	12	
2 月 25 日	事業所説明会	8	2	2	5	7	3	31
3 月 25 日	自閉症事例検討会	4	0	1	14	4	11	4

4 年間行事

月	日	行 事 内 容
4 月	1 日	辞令交付式
5 月	26 日	理事会・評議員会（監事監査報告、事業報告、決算等）
7 月	27 日	理事会（リーブ・フルーリー空調工事、武庫アルテンハイムのナースコール工事等）
9 月	28 日	理事会（理事長選任、就業規則・給与規定の一部改正） 評議員会（就業規則・給与規定の一部改正）
10 月	17 日	尼崎武庫川園祭の開催
12 月	15 日	理事会・評議員会（定款変更、1次補正予算案等）
1 月	31 日	理事会（人事案件、評議員候補の推薦等）
3 月	13 日	評議員選任委員会
3 月	28 日	理事会・評議員会（事業計画、2次補正予算案、29年度予算案等）

松の園

1 平成 28 年度事業総括

28 年度は、男性 23 人、女性 22 人、計 45 人満床でのスタートであったが、8 月に 50 代の男性ご利用者がおひとり亡くなられた。その後 10 月に通所施設から女性が入所され、利用率は 96% 台を維持している。短期入所の延べ日数は 164 日、日中一時は 30 時間のご利用があった。

ご利用者の平均年齢は 51 歳で、それぞれのライフステージに応じて豊かに暮らしていただけることを目指してきた。高齢化の対策として、食事時、入浴時、休日の職員配置を増員した。手厚い支援がおこなえるよう体制を整え、理学療法士を週 5 日配置することで、機能訓練やリハビリに十分な時間をかけている。同時に職員には高齢知的障害者の特性を理解し、不適切な支援につなげない知識とスキルを身につけるべく、研修に積極的に参加させた。医療面では内科医、精神科医、耳鼻咽喉科医、歯科医の定期的な往診で体調を管理し、病気の早期発見に努めている。肺炎や胆石で入院加療が必要な方もおられ、日々の暮らしの中での小さな変化を見逃さないことが大切だと感じている。

朝礼時に支援に関する本の読み合わせは 2 年間続けており、職員の知識と意識の底上げができてきている。また、週に 1 回の全職種が参加する支援会議で支援に一貫性を持たせ、職員間で個々の利用者の様子を共通理解していった。話し合わせ決定したことは、周知され支援計画に反映させるシステムとなっている。

五感を適度に刺激する環境を設定し、感覚を統合する「スヌーズレン」は理学療法士が担当して導入していった。リラックスした空間の中でご利用者のストレスや疲労が軽減できている。音楽セラピーやフラダンスはボランティアの方々力を借りて、充実した余暇を過ごしていただいている。

日中活動の基本となっている生産活動の収益は 161 万円で、前年を 13 万円下回った。2 月にインフルエンザが蔓延し、活動を中止したことが第一の原因と考える。工賃は生産活動収益に見合った支給となっており、平均 3 万 5 千円（年間）を支払った。ご利用者には、体力や特性に応じた配慮をしたうえで、「労働の対価を得る」という喜びを実感していただけたように思う。創作活動も並行しておこなっており、手芸や絵画制作、おやつ作り、食事作り、園芸等、自分の好きな事を見つけるきっかけとなる活動ができている。また、夜間の外出も含め外出行事を増やし、買い物や食事を存分に楽しんでいただける企画を考えて、実践していった。

2 職員配置

施設長	事務員 本部事務兼務	サービス管理 責任者	看護師	栄養士
1	1	1	1	1
理学療法士	支援員 常勤（嘱託）	支援員 非常勤	嘱託医 内科、精神科、齒 科、耳鼻咽喉科	
1	15（6）	4	4	

29年3月31日現在

4 内部・外部研修

実施日（外部）	研修名	参加人数
5月11日	チームマネジメントリーダー研修	1
5月12日	自閉症eサービス中級講座第1回 「問題行動の理解と対応」	1
5月26日	自閉症eサービス中級講座第2回 「困難事例検討 構造化の応用」	1
5月27日	自閉症スペクトラムの特性	1
6月4日	スヌーズレン研修会	2
6月4日	自閉症eサービス初任者実技講習	1
6月8日	チームマネジメントリーダー研修	1
6月12日	スヌーズレンセミナー 「日々の活動で気付くスヌーズレンの概 念」	2
6月16, 17日	甲種防火管理者新規講習	1
6月16日	障害福祉施設新任職員研修	1
6月16日	自閉症eサービス中級講座第3回 [困難事例検討2 地域生活支援]	1
6月24日	いたみ杉の子実践報告会	1
7月5日	新任職員 ojt 担当者研修 基礎編	
7月7日	自閉症eサービス中級講座第4回 「よりよき支援者を目指して」	1
7月7日	なごみの里 施設見学会	1
7月14, 15日	サービス管理責任者研修	1
8月2日	福祉人材の育成推進セミナー	1
8月5日	サービス管理責任者研修	1
8月11日	ななくさ育成園 公開講座	1
8月23, 24日	自閉症eサービス スキルアップ講修	1
8月30日	高齢理的障害者支援の在り方を考える	2
9月8日	自閉症eサービス 基礎講座1	1
9月13日	新任職員ステップアップ研修	1
9月29日	自閉症eサービス 基礎講座2	1

9月30日、1日	強度行動障害支援者研修 基礎	2
10月8, 9日		
10月13, 14日	自閉症 e サービス 評価セミナー B	1
10月18日	サービス管理責任者研修	1
10月19日	チームアプローチ実践研修	1
11月15日	栄養士セミナー	1
11月17日	苦情解決方法	1
11月18日	中堅職員研修	2
11月28日	ノロウィルス食中毒予防講習会	1
12月18日	地域移行実践報告会	2
1月19日	虐待対応力向上研修	2
2月4, 5日	虐待対応力向上研修	2
2月14日	自閉症 e サービス 2 DAY セミナー	1
2月18日	虐待対応力向上研修	1
3月8日	ななくさ学園 事例発表会	1
3月11日	アセスメント向上研修	2
3月18日	評価に基づいた支援の組み立て	2
	自閉症 e サービス 実践報告会	2

6 年間行事

月	日	行事内容	参加人数
4月	6	花見（交通公園）	45
	20	春季健康診断	45
5月	21	BBQ 大会	43
6月	3	日帰り旅行（ヨーデルの森）	45
7月	7	七夕会	45
	12	社会見学（北野工房）	女性 22
	13		男性 23
8月	2, 3, 4, 16, 25, 30	夜間外出 クルージング・野球・海遊館	42
	24	夏祭り（縁日・盆踊り）	45
9月	17	松の園フェスティバル	44
	27 28	ボウリング大会 カラオケ大会	26 12

10月	15	武庫川園フェスティバル	45
11月	12	市民福祉の集い	42
	19	食事会（スタミナ太郎）	45
12月	11	地域清掃	2
	20	クリスマス会（ノボテル甲子園）	45
1月	21	新年会（持ちつき大会）	44
	31	日帰り旅行（箕面温泉）	45
2月	3	節分会	45
	22	社会見学（江崎グリコ記念館）	45
3月	23	ボウリング大会	45

8 月別生産活動収益

月	月別合計金額
4月	141,446
5月	138,069
6月	152,651
7月	130,928
8月	121,396
9月	144,774
10月	156,205
11月	140,962
12月	142,981
1月	104,935
2月	91,388
3月	144,346
合計	1,610,081

カトレアの園

1 平成28年度事業総括

「生活介護」事業と「施設入所」事業を運営する中で、「生活介護」事業では主に創作活動中心に行ってきた。各班運営においては、ポイント付けなど、事務面でご利用者が役割を持って活動に参加できるよう支援した。またカレンダー班と紙漉き班を統合し、職員数を多く確保することで、昨年度の課題であった漉き紙枚数の確保ができた。はがき小物班では季節に合わせたデザインで一年通して売り上げがあり、ご利用者の作業参加への意欲につながっている。各作業班において利用者デザインの導入による創作意欲の向上など、楽しみながらも仕事として役割や責任を持って取り組んでいけるよう支援を行った。

行事ではご利用者が実行委員を担い、企画・準備・当日の運営を行ない、主体的に行事が作られるよう支援した。とことん外出はご利用者からのアンケートで行先を決定し、体調面で配慮の必要な方にも時間や食事内容など個別に対応し、ほとんどの方が一日の外出を楽しまれた。

自立支援の取り組みでは地域で生活されている方の講演会を行い、地域や制度利用の情報提供に努めた。又地域移行のご希望のある方については3名の方に自立支援プログラムを行い、学習と体験をしていただき、1名は29年度にグループホームへ移行されることになった。

「施設入所」事業では安全に安心して生活して頂けるよう福祉機器を用いての環境整備や介助方法の見直しを行った。入浴において、特殊浴槽での入浴を午前に変更することで、重度化により時間やスペースの課題が少し改善できている。

職員の業務については、手書きで行っていた記録の一部を、パソコン管理に変更し、次年度予定しているソフト導入に向けて準備を行っている。

28年度4月は入所定員48名、通所定員10名のところ、入所45名 通所14名でスタートした。通所の方2名が他の事業所に移られ、入所の方1名が入院期間が長期になり退所、2名の方を受け入れ、3月末で入所46名、通所12名になっている。

2 職員配置

施設長	事務員 本部事務兼務	サービス管理 責任者	看護師	栄養士
1	1	1	2	1
理学療法士 非常勤	支援員 常勤（内嘱託）	支援員 非常勤	清掃・運転 非常勤	
2	29（7）	5	5	

29年3月31日現在

3 外部・内部研修

実施日	研修名	参加人数
5月11・25日 6月8・22日	チームマネジメントリーダー	2名
6月20日	介護技術ステップアップ	2名
6月21・22日 7月5・6日	新任職員フォローアップ研修	2名
8月5日	会計実務担当者研修	1名
8月30日	給食・食中毒防止講習会	1名
1月12・13日	ポジショニング研修	1名
1月16日	栄養士・調理師研修	1名
3月1日	摂食嚥下と口腔機能の維持向上	1名

4 年間行事

月	日	行事内容	参加人数
4月	8日	花見	52
	20・21	春季健康診断	57
6月	24日	スポーツ大会	57
8月	15日	ケーキバイキング	32
9月	16	日帰り旅行	12
10月	15日	武庫川園祭り	52
	28日	日帰り旅行	12
11月	4・11日	日帰り旅行	12・10
11月	17日	バザー	1
11月	18日	地域での生活講演会	51
12月	16日	クリスマス会	55

5 月別生産活動収益

月	月別合計金額
4月	2,090
5月	3,425
6月	12,000
7月	18,100
8月	8,700
9月	5,190
10月	10,860
11月	17,060
12月	58,054
1月	30,260
2月	9,950
3月	5,960
合計	181,649

武庫アルテンハイム

1 平成 28 年度事業総括

平成 27 年度から、特養入所定員を 60 名、短期入所定員を 5 名に変更することで安定した収入確保を目指した。平成 27 年度の特養稼働率 78.9% (最大 51 名)、平成 28 年度 79.9% (最大 52 名) と伸びはわずかであったが、短期入所稼働率は 41.1% から 63.0% に伸ばすことができた。

今年度は、介護職員についての補充が改善できない中、長く不安定な体制であった看護師体制を常態である 3 名体制に戻せた。結果、4 名の入居者の看取りが出来たことは、介護現場と医療職との連携が構築できつつあることを示している。

老朽化してきた設備面での補修が如実に現れた 1 年でもあった。南側トイレの足踏みペダルからの漏水、浴室の循環器ポンプトラブル、建物周りの排水管の詰まり等、水周りのトラブルが多かった。

1 月に短期間で 15 名がインフルエンザに感染し、保健所指導を受けた。前年度の感染者対策によって、対応は慌てることなく出来たが、今回は、短期間で多数の感染者が出たこともあり、タミフルの予防投与の指示が保健所から出された。ご家族のご理解の下、早めの未発症者への投与で拡大を防ぐことが出来たことは今後の感染症対策への教訓となった。

2 職員配置

施設長	事務員 非常勤	介護支援 専門員	看護師	栄養士
1	1	1	3	1
理学療法士 非常勤	介護職員 常勤 (嘱託)	介護職員 非常勤 (生活支援)	清掃業務 非常勤	生活相談員
1	19 (5)	11 (3)	1	2

29 年 3 月 31 日現在

3 内部・外部研修

実施日	研修名	参加人数
5 月 17 日	老人福祉施設新任職員研修	1
10 月 16 日	介護職員が知っておくべきリハビリの視点	1
1 月 23 日	対人関係について考える	1
5 月 23 日他 2 回	栄養マネジメントについて	1
6 月 23 日	排泄ケアから考える「活動と参加」	1
7 月 30 日	特養での看護師の役割について	1
6 月 28 日～ 8 月 3 日～	介護支援専門員再研修① 介護支援専門員再研修②	1
6 月 21 日他 2 回	西宮市ケアマネジャー協会総会	1
11 月 1 日 8 月 31 日	介護職員中級研修 生活支援技術① 介護職員等終末期ケア対応向上研修会	1
9 月 3 日他 2 回	介護初級者研修	1

3月4日	特養の介護報酬について	1
11月26日～27日	社会福祉士実習指導者講習会	1

4 年間行事

外出行事の参加は、高齢化と介護の重度化で偏りはあるが、施設内行事への参加は離床の出来る多くの利用者の方々に参加してもらうことが出来た。

月	行 事	
4	花見昼食会	44名
	ミニ外出（桜花見、車窓観桜会）	24名
5	端午の節句会（マグロの解体ショー）、菖蒲湯入浴	44名
	こばと聴覚特別支援学校運動会参加	7名
	食事外出（西宮ガーデンズ）	2名
6	外出行事(花の苗買い、イオンモール×4回)	10名
	日帰り遠足（神戸どうぶつ王国）×2回	8名
7	七夕会	39名
8	夏まつり	47名
9	敬老会	42名
	こばと聴覚特別支援学校敬老訪問	45名
	コンビニ外出×2回	4名
10	武庫川園祭り	42名
	こばと聴覚特別支援学校秋の集い	4名
11	ミニ外出（コスモス見学）	16名
12	・クリスマス会　・ゆず湯入浴	44名
	・大晦日紅白歌合戦鑑賞	26名
1	新年会	45名
2	節分会	43名
3	手作りおやつクッキング	49名

第2松の園

1 平成28年度事業総括

28年度、第2松の園では阪神特別支援学校と芦屋特別支援学校からそれぞれ1人ずつ、計2人の新卒業生と利用契約し、43人でスタートした。しかし、女性利用者1人が9月末に法人内の施設に入所となったため、在籍数は42人となった。1日の平均利用者数は34.4人、定員35人に対して98.3%の利用率であった。27年度は、98.6%あった利用率が、0.3%減少したのには、利用者が元気でも、親が高齢のために家事をしなければいけないなどの理由により、欠席となるパターンも少なくない。また、両親が亡くなったなどの理由で、一人暮らしをしている利用者が3人おり、規則正しい生活を送ることが難しくなったことなどが挙げられる。それらのことを解決し、利用率を向上させることが今後の大きな課題となっている。

生産活動に関しては、目標工賃達成指導員を配置していることで、営業活動がスムーズに行われていることや、ジョブステーション西宮に加入していることで、単独では受注できない多くの仕事を請け負うことができた。また、新たに西宮市上下水道局より、水道メーターの解体作業を請け負うことができた。

西宮市内の施設としてこの解体作業に当たるのは、第2松の園が初めてとあって、新聞にも写真付きで掲載され、利用者にとっても大きな励みとなった。

作業種が豊富にあることで、障害の程度や種類に応じた作業を一人ひとりに提供することができていることから、年々利用者の作業スキルも向上している。

また、武庫アルテンハイムの清掃を引き続き請け負うことができ、新利用者の一人はこの清掃チームに、もう一人は水道メーターの解体チームにそれぞれ所属し、利用者の工賃向上に貢献してくれている。

28年度も多くのボランティアの方にご協力いただいた。作業の手伝いを中心としながら行事にも参加していただいた。そのことにより、請負事業収入に大きく影響しているだけでなく、外部の目が入ることで職員による不適切な支援に気づく効果になっており、風通しの良い環境となっている。また、留学生のホストファミリーをされている方がおられ、定期的に留学生の方もボランティアとして参加して下さっている。外国人を前に、利用者は気後れすることなく知り得る英単語を使って話そうとし、積極的にコミュニケーションを図っていた。外国人と触れ合う機会がほとんどない利用者にとって、大きな経験となっている。

第2松の園の建物が築30年となり、園庭の整備とトイレの改修工事を行った。園庭は、泥水がたまり、足場が悪いことで転倒へ繋がるなど危険性が高いこともあり、地盤を整備し、芝生をひきなおした。また、倉庫を移動し、駐車スペースを広くとるようにした。

またトイレの問題では、設計の古さや数の不足、臭いなど、使用する利用者にとって健康面や衛生面、プライバシー面などに課題があったため、トイレの改修・増設、手洗い場の増設を行った。園庭、トイレの工事により、衛生面や安全面が格段と向上し、利用者が安心して過ごせる環境となった。

2 職員配置

施設長	事務員	サービス 管理責任者	生活支援員	目標工賃 達成指導員
1	1	1	1	1
職業指導員 常勤（内嘱託）	職業指導員 非常勤			
4（1）	2			

3 外部・内部研修

職員名	実施日	研修名	参加人数
外部研修	5月25日、6月22日	チームマネジメントリーダー研修	1
	6月11日	ステップアップセミナー	2
	7月15日	治療と職業生活の両立支援セミナー	1
	7月21日、22日	てんかん基礎講座	1
	8月18日	障害者差別解消法について	1
	8月22日、23日	エンパワメント支援と地域生活支援	1
	10月14日	労働災害防止・労務管理セミナー	1
	2月14日	ダイキン医療福祉経営セミナー	1

4 年間行事

月	日	行事内容	参加人数
4月	5	お花見&お食事会	36
	16	カラオケ	31
	20	春季健康診断	39
5月	12	買い物実習（男性1班）	8
	16	買い物実習（男性2班）	8
	19	買い物実習（女性）	19
	26	買い物実習（男性3班）	5
6月	3	給食試食会・懇談会	17

	10	日帰り旅行（京都嵐山）	
	18	手作りおやつ（コーヒーゼリーパフェ）	28
7月	14	社会見学（忍たまミュージアム）	34
	30	D V D鑑賞	29
8月	10	大掃除	40
	26	2松夏祭り	53
9月	24	スポーツ大会	47
10月	15	武庫川園祭り	41
	29	手作りおやつ（パンケーキ）	29
11月	16	日帰り旅行（淡路島）	43
	19	焼き芋大会	27
	25	B B Q大会	47
12月	22	クリスマス会	60
	28	大掃除	36
1月	4	新年会	34
	23	お食事会（女性利用者）	16
1月	26	お食事会（男性利用者）	17
2月	3	節分会	37
3月	3	ひな祭り撮影会	35
	4	手作りおやつ（セルフバーガー）	29
	18	カラオケ大会	27

5 月別生産活動収益

月	月別合計金額
---	--------

4 月	194,627
5 月	217,123
6 月	255,477
7 月	280,226
8 月	300,698
9 月	374,781
10 月	256,890
11 月	288,721
12 月	240,934
1 月	212,037
2 月	284,001
3 月	308,794
合 計	3,214,309

リーブ・フルーリー

1 平成28年度事業総括

平成28年度は利用者の増減はなく、入所は満床で推移した。生活介護事業における年間の平均利用者数は47.4人であった。短期入所については、延べ利用者数が934人でほぼ前年並みであった。

計画していた年間行事や定例の月次行事等もほぼ予定通り行うことができた。かねてから課題であった空調機の不調が顕著になり、残念ながら計画していた補助金の活用を断念し、緊急的に積立金を取り崩して入れ替え工事を実施した。

28年度から2年計画で取り組んでいる利用者の高齢化による介護体制の強化について、腰痛予防、介護機器、認知症の理解などのテーマで職員研修を実施した。介護度が高くなっている女性利用者の浴室・更衣室等への介護リフト導入に向けて、女性職員2名をすでに運用されているカトレアの園へ実習派遣し、実際の介護機器の使用方法や移乗介護の現場を体験する機会を持った。また、29年度の早期に機器を導入するべく、厚生労働省の介護福祉機器等助成金の申請を3月に行い、受理されている。高齢化や障害特性により集団での活動が困難な利用者には個別の活動を提供するなど、ライフステージにあった暮らしの在り方についても事例検討を進めていく予定である。

充実を目指している地域交流事業では、尼崎市民福祉の集いへの参加（収穫したお芋の販売など利用者4名）、西宮市民祭への参加（模擬店など利用者4名）を行い、販売員として体験活動をしてもらった。利用者からはとても豊かな表情や大きな声で呼び込みをされるなど普段にも増して生き生きとした一面が見られ、大変有意義であった。また、西宮市福祉施策推進懇談会やみやっこ会議（くらし部会）に加え、段上地区社協が実施する「ゆるやかなネットワーク会議」へ職員が参加し、地域の取り組み内容の把握や自法人・施設のPRなども行ってきた。

重点事項としていたアルミ缶作業については、1階倉庫を一部改修して作業スペースを確保したことで参加される利用者が増えた。ご家族の回収へのご協力もあり、一定の売り上げが出たため、年度末に「缶元祭」と称し利用者・ご家族とともに食事会を行い、売り上げを還元した。

2 職員配置

施設長	事務員 本部事務兼務	サービス管 理責任者	看護師	管理栄養士
1	1	1	1	1
理学療法士	支援員 常勤（嘱託）	支援員 非常勤	清掃業務 非常勤	
1	22（3）	6	1	

* 育児休暇中常勤支援員 1

29年3月31日現在

3 内部・外部研修

<外部>

実施日	研修名	参加人数
5月11、25日 6月8、22日	チームマネジメント研修	2名
9月20日	見えるコミュニケーション	1名
10月25日	福祉用具のポイント研修	2名
10月27日	ストレスマネジメント研修	1名
1月11日	県知協施設長研修	1名
2月4日	摂食嚥下障害研修	1名
2月9日	会計実務者研修	1名
3月8日	アセスメントスキル向上研修	2名
3月10日	栄養業務担当者合同研修	1名
通 年	自閉症 e サービス集中研修	2名

<内部>

実施日	研修名	参加人数
4月15日	感覚統合について	8名
4月18日	K Y T（危険予知）について	6名
5月11日	腰痛予防研修	5名
5月25日	自閉症研修	10名
6月23日	介護技術研修	4名
7月12日	ノロウイルスについて	6名
7月27日	てんかん発作について	5名
8月24日	介護技術研修	5名
8月29日	個別支援計画について	10名

9月14日	ヒヤリハット・服薬について	7名
9月21日	バリアフリーについて	7名
10月24日	自閉症研修	9名
11月21日	感染症（インフルエンザ）研修	8名
12月26日	認知症について	12名
2月20日	自己覚知について	10名

4 年間行事

月	日	行事内容	参加人数
4月	5～7	花見	50
	22～28	春季健康診断	50
5月	20	運動会	50
6月	3.6.10	日帰り旅行（京都方面）	50
7月	22	夏祭り	49
通年	1～2回 ／月	選択外出	50
9月	14	B B Q大会	49
10月	15	武庫川園祭	50
	22	西宮市民祭	4
11月	12	尼崎市民福祉の集い	4
	17～18	一泊旅行（飛騨高山方面）	50
12月	11	わがまちクリーン（地域清掃）	3
	22	クリスマス会	50
1月	18	新年会	50
2月	3	節分会	50
3月	2	ケーキデコレーション大会	50
	27	缶元祭	50

第1 松の園

1 平成28年度事業総括

① 事業内容

「生活介護」事業では、生産活動、小集団活動、個別支援活動の3つの柱の支援メニューで、個々に合った活動を1か月ごとに本人と一緒に選択し、日中活動を行ってきた。初めてカラオケ店でのカラオケを実現するなどご利用者の希望を聞きながら新しいことも取り入れてきた。月3回、5人のボランティアに関わっていただき開放的に行ってきた。

「就労継続B型」事業では、一昨年度から作業材料がなく、就労事業として機能しないことが生じていたが、JOBステーションと繋がるなど、企業の開拓などを行い、安定した収入が得られるようになり最低工賃は確保できた。

行事は、利用者アンケートを行うなど声を聴いて取組んだ。特に1松作品展と武庫川園祭りでは、準備や、受付・バザーの売り子や舞台での踊り・歌などを担当していただき、日ごろ製作されたものを法人内の職員・利用者の皆さんに見ていただくなど活躍できる場面を作れた。また、広報のリニューアルに取り組み、利用者の笑顔を必ず載せ、風通し良くご家族にお知らせしてきた。

② 体制

利用者お二人が退所され、50名でスタートした。1名は登園困難のため、電話や訪問を行ってきたが退所となり、相談支援事業利用につなげた。あと1名は長期入院で退所された。年間を通じて新利用者に入っていただく取組みを行い、8月には芦屋特別支援学校の生徒の体験実習の9人延14日の受入れ・10月には2人の芦屋特別支援学校生の体験実習を行い、卒業式後からの契約に結び付けた。人件費の支出減のため職員2名を非常勤にかえたこともあり、支援の体制とスキルが追いつかないとの判断で、卒業生は1名のみとした。その分在園者への丁寧な対応を図り、登園率を上げることに努力した。

③ 安全・権利擁護

利用者の安全については、31件のヒヤリハット・事故報告が上がり、改善を周知した。大きな事故としては、通園バスの事故・園からの行方不明・作業中にはさみで手を切ってしまうことがあった。通園バスの乗降のリスクが高まった方に車イス対応車での送迎を実施したり、通園バス全補助席にシートベルトを付けるなど、安全配慮に努めた。

職員の利用者への対応についての苦情・要望は10件であった。今後、研修・会議などで更に職員のスキルアップを図っていきたい。

2 職員配置

施設長	事務員 本部事務兼務	サービス管理 責任者	看護師 パート	栄養士
1	1	1	(1)	0
理学療法士 非常勤	支援員 常勤(内嘱託)	支援員 非常勤		
0	9(1)	2		

29年3月31日現在

3 外部・内部研修

実施日		研修名	参加人数
5月	11	チームマネージメントリーダー研修	1
	12	問題行動の理解と対応	2
	18	一羊会実践発表	1
6月	11	利用者の働く力を伸ばす現場づくり	1
	23	甲山福祉センター施設見学	1
7月	5	新任職員OJT担当者研修 基礎編	1
	7	保護者会事業所見学	1
	21・22	てんかん基礎講座	1
	27	相談面接技術研修 中級1回目	1
8月	10	相談面接技術研修 中級2回目	1
	18	障害者差別解消法について	1
	18	発達障害とトラウマ	1
	30	高齢知的障害者支援のあり方を考える	1
9月	2	施設ボランティア担当者研修	1
	8	特性理解とTEACCH最新情報	1
	13	精神障害に関する事業者合同研修会	1
	16	職場研修プレセミナー	1
	19~23	施設長資格研修	1
	29	評価から支援へ	1
10月	30・1	強度行動障害支援者養成研修	1
	14	苦情・クレーム対策研修	1
	20	構造化のアイデア	1
11月	10	コミュニケーション	1
	17	接遇指導者研修	
12月	20	福祉介護事業所のメンタルヘルスケアについて	1

4 年間行事

月	行事内容	人数
4	花見	44
5	定期健康診断 昼食会	45
6	日帰り旅行	45
7	(七夕まつり) 1松作品展	45
8	1松夏祭り	45
9	スポーツ大会	26
10	武庫川園祭り・社会見学	42
11	日帰り旅行	37
12	クリスマス会・(冬季休業)	43
1	(新年会)	45
2	個人懇談・(節分)	48
3	(ひな祭り)・クラブ活動発表会	45

5 月別生産活動収益

4月	111318
5月	93439
6月	87725
7月	149429
8月	133467
9月	125019
10月	144075
11月	146034
12月	202155
1月	166336
2月	192967
3月	189119
計	1741083

こころ&つばさ

1 平成28年度事業総括

「共同生活援助」については、平成24年3月に事業を開始し5年を経過した。

相談支援員やヘルパー事業所、カトレアの園が連携し、その方のペースで地域生活を支援している。ご利用者は日中の活動場面において、カトレアの園だけではなく、他の4つ事業所を利用されている。

地域のボッチャチームに所属されている方がおられるので、カトレアの園での活動に、ボッチャを取り入れ障害者スポーツを普及したいという思いを形にした。

27年度にグループホームから一人暮らしに移行された方をカトレアの園に迎え、地域での生活について講演会を行っていただき、現在1名の方が、一人暮らしの希望を持たれている。またカトレアの園でグループホームへの移行を希望されている方が4月に利用開始する事になった。

安全対策としては消防計画に従い避難訓練を実施して、利用者自身が自らの安全を守るための知識や態度をもてるように支援をしている。

現在、事業としては黒字での運用となっているが、非常勤での運営に関して人員の確保が難しい状況は続いている。学生以外では夜勤者、入浴介助者の職員は定着しており、地域での職員確保を実現することで職員数の安定を図っていきたいと考えている。

2 職員配置

管理者	サービス管理 責任者	支援員 非常勤
1	1	13

29年3月31日現在